氏家税務署長賞

将来の日本を支える税金

高根沢町立北高根沢中学校
三年　田村　陽世

東日本大震災から五年が経過した。私が住んでいる地域でも、家屋の一部損壊や小学校の校舎が損壊したなどの損害が発生した。今では、家屋等が修繕され、また校舎が新たに建設されて震災前と変わらない生活ができている。最近ではテレビの情報から、東北の地域でも、順調に復興に向かっている様子が確認できる。

私も税の作文を書くに当たって、国税庁のホームページや環境省のホームページをみて、税金の仕組みや使い道など初めて知った。特に私は復興特別税に関心があった。調べてみると東日本大震災の影響を受けた地域が、以前と同じような生活を取り戻すために復興特別税という税金が使われていることがわかった。具体的には、瓦礫撤去処理や除染作業工事や仮設住宅・道路・学校・保育園・市役所などの公共施設の建設にかかる費用がこの復興特別税金で賄われているのである。

ある時、私の父が仕事の関係で東北地方に出張した時の話を聞いた。高速道路を車で通って驚いたというのだ。高速道路から見えたのは、黒い大きな袋があらゆる場所に山積みされているのだと言う。私は、その黒い袋の中身は何なのかを聞いてみると、原発事故で放射能に汚染された土や草木などが入っていることがわかった。インターネットで調べてみると、フレコンバックという黒い袋の中には除染廃棄物が入っていて、日々増え続けているという。除染廃棄物は、原発事故で汚染された地域の復興のために、防護服を着用した作業員が命がけで除染作業から排出されたものである。また、作業員の中には、全国各地から復興を願って仮設宿舎に住み込みで働いている方も多いというのである。私は、このように被災地の復興の現場で間違いなく復興特別税が利用されていることを実感した。

被災地では、未だ多くの方が自宅を離れ、仮説住宅で生活している状況が続いている。将来的にも避難指示の解除が見込めないと考えるならば、税金の活用については四年後に開催予定の東京オリンピックも当然必要ですが、私は被災地そして被災した方々が震災前と同じような生活ができる環境に戻すことの方を優先するべきだと考える。

今、私達中学生は教科書や学校施設など、一人あたり年間約百万円の税金を投入してもらっている。私たちができることは、しっかり勉学に励み、そして日本を支えていく自覚を持って社会貢献することだと思う。

平成28年度 中学生の「税についての作文」作品集
氏家税務署
氏家税務署管内納税貯蓄組合連合会編